

高柳中だより

第10号 柏市立高柳中学校
令和8年2月3日
校長 植松 一 裕

学校経営スローガン
「あたたかい言葉、そして気付き 考え 行動する高柳中」
～あったかやなぎな学校を目指して～

【2月の高柳中】 『学校だより』では個人情報保護のため生徒の個人名は載せません

2月は3年生の第4回定期テストに始まり、翌週は1～2年生の定期テスト、その翌週は公立高校学力検査、さらに最終週は公立高校追検査も予定されています。公立高校追検査は予定されていた学力検査を別室受検も困難でやむを得ず受けられなかった者を対象とする検査ですので、対象とはなりたくないですが有り難い制度ではあります。さて、現在の公立高校入試は原則「インターネット出願」となりましたので、どの公立高校を受検するのかを決めた後は1月中頃から始まる「志願者情報の登録」も2月始めの「出願書類の提出」も高校に行く必要はなくなりました。以前は入試日前に出願があったのでそれが受験校に行く練習となったのですが、半年前の夏に見学したっきりの高校に再度スムーズに行けるかどうかはきちんと復習しておいた方が良さそうです。今でもこの時期になると思い出すのは、約30年前の勤務校であった実際の出来事です。その生徒は沼南高柳高校を受検する予定だったのですが、なんと沼南町立高柳中学校の正門前で開門を待っていたというのです。当時の高柳中の先生が見知らぬ中学生が正門前に立っていたので、機転を利かせ声をかけてくれて最悪の事態（受検できず！）は免れました。学力検査日の集合時間は9時30分なので、朝のラッシュは多少緩和される時間ですが、慣れない場所に行くには余裕を持って家を出た方がよいと思います。

24日は3年生対象に落語の鑑賞会を行います。これは振興会予算の学校運営補助費から支出させていただきます。当日は真打ちの落語家 春風亭一蔵さんにご来校いただく予定です。

27日の午後は3年生を送る会を行います。1～2年生は1月から準備を進めてきました。どの中学校でも例年行われてきた行事ですが、先輩に向けて1～2年生が準備した発表はどれも素晴らしいものでした。今年も楽しみです。

28日（土）は今年度3回目の振興会環境整備を予定しています。今回、皆様をお願いするメインは校庭の側溝掃除です。また、高柳中協力会の皆様には生徒の活動に邪魔だったり、枝の落下が危険と予想されたりする桜の木の枝落としを行っていただく予定です。側溝掃除も枝の片付けも力仕事になりますので、多くの方にご参加いただけると助かります。

2月の行事予定

2日（月）会議日（放課後部活動なし）	21日（土）振興会本部役員会議
3日（火）公立WEB出願 ～5日	26日（木）公立高校追検査
5日（木）3年定期テスト ～6日	27日（金）3年生を送る会
7日（土）部活動停止期間	28日（土）振興会環境整備
12日（木）1～2年定期テスト ～13日	
16日（月）会議日（放課後部活動なし）	
17日（火）公立高校学力検査 ～18日	



【職業人講話】

1月27日に2学年対象の職業人講話を行いました。今年講師をお引き受けいただいた7名はプロゴルファー、イラストレーター、看護師、栄養士、警察官、美容師（スタイリスト）、経営コンサルタントのみなさんでした。いずれも教頭先生又は岩岡先生の教え子で、30歳前後の皆さんでした。生徒に比較的年齢の近い職業人のご自身の仕事について生き生きとお話する姿は生徒にとって魅力的だったことと思います。



【学校評価アンケート】

12月にご協力いただいた学校評価アンケートを整理し、1月28日の学校運営協議会議で報告をし、委員の皆様からご意見をいただきました。生徒・保護者・教職員のアンケート結果は、別紙にまとめた通りです。それぞれの満足度を過去2年間と合わせた経年変化で表しています。保護者も生徒も毎年度1／3ずつ入れ替わるので、2～3ポイントの上下はあって当たり前だと思っています。生徒評価の「10 家庭学習」「16 先生は生徒の相談に親切に対応」「21 家庭・地域・学校が連携して教育活動」は嬉しく思いました。一方、保護者評価の「19 地域の行事に積極的に参加」は年々下降しており、働き方改革とは言え改善すべきと感じました。保護者自由記述にはとても多くのご要望とともに励ましの言葉もいただきました。特に体育祭に関するご意見はたくさんいただきました。令和8年度に向けて再度考え直してみます。お一人の意見でも「なるほど」と思うものは取り入れていきたいです。学校図書館の蔵書について、「保護者からのおすすめも入れてほしい」というご意見がありました。これは早速次年度の図書購入に活かしたいと思います。

学校運営協議委員からは、『「これは家（保護者）が指導しましょうよ』という要望も多いですね』、というお話をいただきました。家庭も学校も協力して子どもたちを育てていかなければいけない、と改めて考えさせられました。